

風土記の丘の花だより²⁵⁶

今、そしてこれから見られる植物(2024年10月12日)

朝は本当に涼しくなりました。やっと秋を実感できるようになってきました。群れ飛んでいたウスバキトンボがいなくなりましたが、ハギの花の周りではシジミチョウやセセリチョウの仲間が飛び回っていて、見ていて飽きません。



華やかさに欠けるイネ科やカヤツリグサ科の植物はどうしても見過ごされがちです。左の写真の、どこから見てもイネ科っぽい草は、よく見かけますが、名前はチカラシバといいます。漢字で書くと「力芝」、わかりやすい名前です。どうして「力」というと、抜く時にものすごく力があるからです。それほど根がしっかり張っているということです。ですから、庭やハタケに生えてきたらこまりますが、野外で眺めている分には、秋の風情を感じさせてくれるのでいいですよ。特に逆光でみるといいですねえ。



万葉植物園でミゾソバが咲いています。溝などの湿った所に生えるソバによく似た草という意味の名前です。ソバの花は真っ白ですが、ミゾソバはきれいなピンク色が混じっているのかわいく見えます。葉の形がおもしろく、付け根が左右に張り出していて、それを牛の角に見立て、この草のことを「うしのひたい」とも呼びます。と書いている図鑑などもありますが、そんなに呼ぶ人に、いまだかつてお会いしたことがありません。図鑑の「～とも呼ぶ」と書いているのも怪しいものです。



同じく万葉植物園でコメナモミが咲き始めています。ひつつき虫で知られるオオオナモミはオナモミの大きいので、そしてこれはメナモミの小さいので、ということになります。でも、メナモミの仲間にはオナモミの仲間のような刺はありません。そのかわりネバナバがついていて、それでくっつきます。風土記の丘ではオナモミもメナモミも見ることがありません。あるのはオオオナモミとコメナモミです。ところで、ナモミは「なもむ」という言葉からきていて、くつつくということです。



アメリカセンダングサが咲いています。よく似たコセンダングサより湿った所を好み、花びらのない黄色い花の周りには細長い葉のようなもの(包葉)が何枚も付いているので見分けは簡単です。名前からも分かるように北アメリカあたりからの外来植物です。でも、もうすでに日本の風土になじんでしまっている身近な雑草です。在来種を押しやるでもなく仲良くやっているようです。松下